

2021 年度 第 2 回診断評価等基準委員会 議事録

開催日時：令和 4 年 1 月 20 日(水) 18:00-19:00

開催場所：Web 開催

出席者(敬称略)：筑田博隆・紺野慎一・佐藤公昭・寒竹司・加藤壯・川上守

金山雅弘・本郷道生・橋爪洋・細野昇・土井田稔・関口美穂

欠席者(敬称略)：福井充 ・和田英路・竹内大作・金森昌彦

議題

1. プロジェクト研究進行状況について

①「腰椎変性側弯症の健康関連 QOL 低下に及ぼす X 線学的（脊柱変形）パラメータを
検討する多施設横断研究」（担当：竹内委員）

→竹内委員が欠席のため、次回確認（継続審議）

②「腰椎変性すべり症に対する手術治療法の有用性に対する JOABPEQ を用いた多施
設前向き研究」（担当：寒竹委員）

→論文の投稿準備中。（継続審議）

③LSS 疾患特異的アウトカム評価のための症状スケールと QOL スケール検証（担当：
関口委員）

→集積状況は 163 例で、さらなる集積特に、50 歳代と 80 歳代は積極的に集積をお願いする。回収済みのデータの電子化を外部委託の準備中。(継続審議)

④ Lumbar Stiffness Disability Index (LSDI)の妥当性の検証(担当:橋爪委員)

→

- 和歌山で日本語版を開発し、検証研究を実施。同時期に他グループで日本語版を開発し、検証研究発表あることから、本委員会での研究の継続について協議。
- 側弯症学会のワーキンググループが立ち上がったので、紺野委員長が情報収集し、後ほど共有。
- 高見先生の外的妥当性の結果は、論文化(高見先生が主著者として)を進めることが提案され、橋爪先生と高見先生で相談。
- 当委員会は、収集された情報から、今後の方針を判断する。
- 新しい評価法を開発するという案も提案された。

2. JOABPEQ、JOACMEQ 偏差得点の開発の進捗状況について(担当:福井委員)

→ 欠席のため、次回確認(継続審議)

3. その他

新テーマの提案

- 日本腰痛学会との共同研究を進めるという方向性が提案された。
- 胸髄症の疾患特異的な評価法の開発が提案された。頸椎や腰椎の評価法で代用されていること、今まであまり着目されていない分野であることから、委員会内その必要性が認識された。症例数が少ないことから検証時の症例集積が課題という意見が出た。本提案は前向きに検討することが良いという意見となった。

- 今後、良いテーマがあれば提案していただく。